

はなさぼケーススタディー一覧



児童生徒の様子

サポート ❀ アイディア

課題の未提出が多い生徒【中1】



複数の教員で観察してみましょう

気になる様子が見られる児童【小1】



話し合うメンバーを集めましょう

離席する児童【小5】



必要な情報を集めて記録しましょう

授業の流れについていけない生徒【中1】



困難さの背景を考えましょう

コミュニケーションが苦手な生徒【高1】



効率的に話し合いを進めましょう

ノートの書き写しに時間がかかる児童【小6】



保護者と連携しましょう

忘れ物が多くスケジュールリングが苦手な生徒【高2】



スクールカウンセラーや
スクールソーシャルワーカーを
活用しましょう

他害が多い児童【小4】



相談できる機関を確認しましょう

数学が苦手な生徒【中2】



特別支援学校へ相談してみましょう

行動の切り替えが難しい児童【小2】



はなさぼシートで支援を継続しましょう

課題の未提出が多い生徒



学年主任

中学1年生の学年主任をしている宮城先生は、先日、同学年担任から、課題の未提出が多いAさんについて、指導してもなかなか改善が見られないと相談があった。理由を尋ねると、「忘れていました」「時間がありませんでした」とやる気がない様子で答えるそうで、担任は対応に困っている様子だった。宮城先生は、期限厳守の進路資料や健康を守るために必須となる提出物があることなど、普段から期限を守り提出物を出すことの大切さを伝えてはどうかと担任にアドバイスをした。担任が指導すると、課題が提出されたものの、定期テストが近付くと、いろいろな教科で課題の未提出が増え、登校渋りや欠席が続くようになった。担任も悩んでいる様子があり、対応が迫られていた。



「忘れていました」の背景にある困難さは？

これまでAさんにとって、「忘れていました」と言うことが、その場をしのぐ手段として有効だったのかもしれませんが。登校渋りや欠席が続く状況からも、苦しみのサインが見えています。課題が提出できない背景に、学習の困難さがあるかもしれない、優先順位や計画をすることが苦手なのかもしれないなど、様々な仮説を立てて見立てることで、児童生徒へのアプローチが変わります。教員が困っているだけでなく、児童生徒が一番困っていると捉え、目の前にある未提出の課題への対応だけではなく、長期的な視野で児童生徒の成長を考え、必要な支援をチームで検討できると良いですね。

複数の教員で観察してみましょう



🌸 期間を決めて複数で観察し情報を集める

複数の教員で児童生徒を観察し、学習への参加の様子や行動の前後の状況を整理するための情報を集める。教科別に観察したり、一つの場面を複数の教員で観察したりし、客観的な情報を収集する。意識して観察できるよう、期間を設定する。

🌸 チェックリストを複数の教員で実施する

担任一人だけではなく、学年主任や教科担当など児童生徒に関わる教員が一人一人チェックリストを実施する。学習面と行動面からそれぞれ実態を捉え、見立てや手立てのヒントにする。

🌸 児童生徒の困っている状況や困難さは何かを探す

取り組むことができないという背景に、児童生徒の困っていることや困難さがあるかどうかを探る。できていないことだけではなく、できていること、良い面や強みをたくさん集めることが、支援のヒントとなる。



ケーススタディー一覧へ



コラム一覧へ



はなさぼシートへ



地域支援相談MAPへ

気になる様子が見られる児童



担任

小学1年年の担任をしている佐藤先生は、クラス全体がようやく落ち着いてきたと感じていた。そんな中、Bさんの行動がマイペースで、学習の習得に時間がかかることが気になっていた。夏休みが明けた頃、担任以外の教員の名前を覚えていないことや、クリスマスやひな祭りなどの季節の行事がいつ行われるのかが分からないことに気が付いた。また、クラスの児童から、「Bさんと一緒に遊んでいるけど、ルールを覚えてくれない」と、相談があった。夏休み明けの様々な場面で、児童の気になる様子が見られるようになり、担任として困惑していた。

気付きは支援のチャンス！



Bさんは、担任以外の教員の名前を覚えていない、行事がいつ行われるか答えられない、友達との遊びの中でルールが覚えられないなど、生活の中で自然に身に付いていくようなことが習得されていないことが分かります。学習において若干時間がかかるといった様子から、今後、学年が上がるにつれて、ますます学習が遅れることも予想されます。現段階では担任が把握しきれない部分があることから、まずは、複数の教員によるチームで、様々な場面での児童の情報を収集し、整理していく必要があります。気付きは支援のチャンスです。話合いから、支援をスタートしましょう。

話し合うメンバーを集めましょう



🌸 児童生徒の情報を知る人

現在の指導者や支援者など、児童生徒の情報を詳しく知る人を集める。学級の担任だけでなく、中学校や高等学校であれば、教科担当や部活動の担当なども話し合うメンバーの一人として検討する。児童生徒を誰よりも知っている保護者もチームのメンバーとなる場合もある。

🌸 専門的な視点を持つ人

多様な背景がある児童生徒について、教員の専門性を生かしてチームで多角的に捉える。特別支援教育コーディネーターや養護教諭、スクールカウンセラー、管理職、生徒指導担当など担任だけでは気付かない視点から見立てることができる。

🌸 特別支援教育の経験豊富な人

特別支援学級担任や通級指導担当といった特別支援教育に携わっている教員、通常の学級において類似のケースを担当した経験がある教員などから手立てのアイデアや指導のノウハウ、ヒントが得られる。



check

ケーススタディー一覧へ



check

コラム一覧へ



check

はなさぽシートへ



check

地域支援相談MAPへ



離席する児童



担任

小学5年生を担当している菅野先生は、クラスのCさんが、落ち着きがなく、授業中に離席することが多いと気になっている。長時間座っていることが難しく、分からないことやできないことがあると立ち歩くため、時々授業が進まないことがある。学年で対応を話し合い、Cさんに落ち着かない様子が見られるときは、クールダウンできるよう、別室への移動を促すこととした。ある日、授業中に気持ちに乱れが見られたためクールダウンを提案すると、大きな声で「ラッキー」と言って移動した。それ以降も改善傾向が見られず、クールダウンの方法を含めた指導の効果について疑問を感じているが、学年会で決めたことであるため、そのまま対応を続けている。

離席する理由は？



Cさんにとって学習の内容が分からないときに離席したり大きな声を出したりすると別室へ移動できることが、好都合になっている可能性があります。クールダウンという手立てが機能していないと考えられるため、手立ての変更が必要です。話し合いで一度決めた内容でも、改善が見られない場合、担任以外の教員がさらにもう一度丁寧に観察し記録をしてみましょう。再び整理した情報で手立てを検討していくことが大切です。また、児童生徒の成長のため、分からないときやできない場合の意思表示の仕方を身に付けさせる、という視点も大切になります。十分な校内の検討をした上で、支援がうまくいかない場合に、特別支援学校に相談することで、新たな支援方法が導き出されるかもしれません。

必要な情報を集めて記録しましょう



🌸 エピソードで記録

課題となる事象の前後を含めた様子を記録する。いつ、どこで、どのような状況かといった具体的な内容を記録することで児童生徒の困難さや背景を客観的に捉える。

🌸 話し合いの内容を記録

情報共有や支援の検討、役割分担、振り返りなど話し合いの内容を記録し蓄積する。引継ぎのときにこれまでの支援の経緯を把握したり、支援の再検討をするためのヒントとして活用する。

🌸 記録の継続

一年間を通した支援の状況を記録する。支援の継続や変更、話し合いの実施や外部との連携など支援の進捗状況を確認できるようにする。



[ケーススタディー一覧へ](#)



[コラム一覧へ](#)

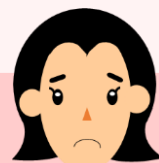


[はなさぼシートへ](#)



[地域支援相談MAPへ](#)

授業の流れについていけない生徒



担任

中学1年生の担任をしている森先生は、集団に対し一斉に指示をしたときに友達の様子を見てまねをしているクラスのDさんの行動が気になっていた。それ以外にも、口頭の指示が分からなかったり、聞いたことをすぐ忘れてしまったりすることがあった。小学校からは、学習の遅れはなく素直で穏やかな児童だとの引継ぎがあり、学校の聴力検査では異常なしという結果であった。ある日、Dさんは、友達から「あまり話を聞いてない？」とか「何度聞き返すの？」と言われたことで、担任へ相談に来た。Dさんは、「聞こえているけど、分からないことがある。それを周囲に理解してもらえず苦しい」と訴えており、担任としてどうしたらよいか、悩んでいた。

聞こえにくさを補う工夫を！



Dさんは、雑音と声が混在している音から必要な情報だけを選んで聞き取ることや音を言葉として聞き取ることが難しいことが考えられます。その結果、授業にワントempo遅れたり、何度も聞き返したりするような行動につながったと考えられます。聴力検査で異常がなくても「聞く」ことに困難さがあることと同じように、視力検査では異常がなくても、文字を読むときに、一文字ずつ拾い読みしていたりノートの書き写しに時間がかかったりという場合、「見る」ことに困難さがあることが考えられます。児童生徒自身は、その状態が当たり前であるため気付くことは簡単ではありません。日頃の教員の気付きは大切です。サインの気付きは次の支援の大きな一歩になります。

困難さの背景を考えましょう



🌸 複数で観察

複数の教員で生活や学習場面での観察を行うことで、どこに困難さがあるか、多くの情報が得られ支援につなげることができる。

🌸 特別支援学校への相談

特別支援学校への相談で、児童生徒の見え方や聞こえ方の特性を捉えたり、学習用具の紹介や児童生徒の困難さを一緒に考えたりなど、助言を受けることができる。

🌸 情報の共有

情報を共有することで、統一した支援ができる。必要な資料をタブレット端末に表示したり、読みやすくするための学習ツールを使用したりするなど、各教科での支援に活用できる。



check

ケーススタディー一覧へ



check

コラム一覧へ



check

はなさぽシートへ



check

地域支援相談MAPへ





Eさんは天体に関する知識が豊富で、高校入学後には地学部に入部し楽しく活動している。入学して2週間程度たった頃に、担任から、「最近どう？」と急に声を掛けられた。何のことなのか分からず、もしかすると声を掛けられたのは自分ではないと思い、何も言わずにその場を立ち去った。放課後、なぜ無視をしたのかと、担任に指導された。無視はしておらず、何も悪いことをしていないのに、なぜ指導されたのか分からず困惑した。国語の授業では、グループに分かれて音読をしているときに、学級の他の生徒に笑われたのがとても嫌だった。それ以来、国語の授業になると体が重くなるので保健室で休んでいる。

社会性の特性があるとしたら？



Eさんは、特徴的な話し方で一方的に話をしたり、人との関わりが苦手であったりすることから、他者との関係をうまくつくるのが難しい可能性があります。また、相手の気持ちを読み取ることが難しく、担任はちょっと声を掛けたつもりでも、「指導された」「怒られた」などと受け取ってしまうことも考えられます。集団での関わりにおいて強いストレスを感じていることも考えられます。これまでも周囲の支援によって、Eさんの特性や障害による困難さが軽減されていたのかもしれませんが、高校生になると環境が変わり、自立に向けた様々な活動があります。中学校までの支援や家庭での様子、現在の状況をチームで丁寧に整理し、高校卒業を見据えた支援の方向性を検討していきましょう。

効率的に話し合いを進めましょう



🌸 事前に情報を伝える

話し合いたい情報をあらかじめ整理して記録し、事前に共有しておく。検討したい内容を事前に伝えておくことで、それぞれの考えを持って話し合うことができ、効率化につながる。

🌸 話し合いながら記録し効率よく進める

話し合った後に改めて記録をするのではなく、話し合いながらその場で記録する。決まったことだけでなく、出された意見や手立てを記録することで、次の手立てのヒントになる。

🌸 分割して話し合う

情報を共有したい、手立てのアイデアが欲しい、役割の分担がしたい、など、話し合いの目的に応じて分割して話し合うことが可能である。決めた内容を記録し共有しておく、全体を振り返ったときに役立つ。



[ケーススタディ一覧へ](#)



[コラム一覧へ](#)



[はなさぽシートへ](#)



[地域支援相談MAPへ](#)

ノートの書き写しに時間がかかる児童



担任

小学6年生の担任をしている村上先生は、昨年度からの引継ぎで、気になる児童に対し実施したチェックリストの結果において、クラスのIさんが学習面で若干問題があったとの話を受けていた。家庭学習のプリントでは、毎回、何度も書き直した跡があり一生懸命に取り組んでいると捉えていたが、家庭学習で解けていた問題であっても、授業では解けないことがあった。ある日、音読で文字を読み飛ばしたり、つまずきながら読んでいたことから、授業後に声を掛けたところ、Iさんが数の計算問題は得意だが文章問題は苦手だと言っていた。その他にも、板書をノートに書き写すことは、他の児童に比べかなり時間がかかる様子が見られ、担任は気になっていた。

保護者と一緒にチームで支援！



Iさんは、文字を読み飛ばしたり、つまずきながら読んだりするという様子から、文字を目で追うことが苦手であったり、文章の中から単語や文節といった意味のあるかたまりで文字を弁別することが難しいかったりなどの困難さが考えられます。一つの要因に過ぎませんが、書くことへの弊害が起きている場合があります。家庭学習において、何度も書き直した跡があるということから、保護者の協力があって提出ができていたことが予想されます。学校が、保護者の思いを十分受け止める機会が必要かもしれません。担任一人ではなく、チームで話し合い検討をしていきましょう。

保護者と連携しましょう



保護者のニーズを捉える

現在求めている支援について、話を聞いてほしい、家庭での支援方法が知りたいなど、保護者のニーズを的確に捉える。困っていることは何か、あるいは困っていないのか、保護者の状況を丁寧に整理する。

児童生徒の状況を整理して伝える

気になる様子や困難さがあつた場面など、共有したい情報を整理しエピソードで伝え、共有した事実も記録する。保護者に伝える際は、児童生徒の頑張っている姿や良かったことなども併せて伝えるようにする。

チームの一員として話し合う

学校での支援の経緯や経過などを伝え、今後の支援の方向性を検討するための話し合いの場を設定する。保護者や児童生徒の願いを丁寧に聞き取り、学校と保護者が一緒に児童生徒を支えるようなチームづくりを行う。



check

ケーススタディー覧へ



check

コラム一覧へ



check

はなさぼシートへ



check

地域支援相談MAPへ

忘れ物が多くスケジュールリングが苦手な生徒



高校生

中学校の頃からHさんは、整理整頓やスケジュールリングについて、学校の先生から指導されることがあり悩んでいる。毎回使用するノートや教科書は、忘れないために全て持ち歩き、メモを取っているものの、かばんに入っているにもかかわらず探し出せなかったり、提出することを忘れてしまったりする。宿題や部活動の準備など複数のことが重なると、何から行動してよいか分からず頭の中がごちゃごちゃし混乱してしまう。先日、友達との約束を忘れてしまい、教室にいるのが気まずくなり保健室に行った。その後、宿題、部活、友達関係など問題が山積みでどうしてよいか分からず、学校に行こうとすると頭が痛くなり、遅刻や欠席が増えた。

専門家と連携し児童生徒の自己理解を促そう！



Hさんは、同時にいろいろなことをこなすより、一つ一つを順番に進めることが得意な可能性があります。整理整頓や提出物についても、一度にたくさんの指示が出されると理解することが困難な場合があります。一つの指示ができたなら褒める、ということ積み重ねていくことが必要かもしれません。また、忘れ物をしないように自分なりに工夫しようとしている様子が見られますが、その場しのぎの対応になりかねません。スクールカウンセラー（SC）と連携し、Hさんの自己理解を促す支援なども考えられます。またスクールソーシャルワーカー（SSW）と連携し、家庭と一緒に取り組む支援や、必要に応じて福祉の分野と連携しながら支援について考えてみましょう。

SCやSSWを活用しましょう



SCによる生徒理解

SCと学校が連携し、児童生徒がSCと相談する機会を作る。自分の苦手なところを補い、強みを生かし、それらを生活に結び付けていくことができるように、自己理解についてのアプローチをしていく。

SSWによる環境への働き掛け

欠席が増えていることから、家庭との関わりを見据えてSSWと学校が連携する。また、児童生徒が卒業後に活用できる相談先を把握できるように、SSWと相談する機会を持つ。

保護者のつながり

保護者がSCやSSWとつながりを持つことで、児童生徒の支援がより厚くなる。保護者の連携の仕方をSCやSSWと相談しながら進めていく。



ケーススタディー一覧へ



コラム一覧へ



はなさぼシートへ



地域支援相談MAPへ

他害が多い児童



担任

小学4年生の担任の小森先生は、クラスのFさんが、授業中に椅子をカタカタと揺らし、隣の児童に声を掛けることに対し、Fさんを注意すると、配布資料を破いたり、教科書に殴り書きをしたりするため、悩んでいた。気持ちが落ち着かなくなると、「は?」「意味が分からない」「うざい」などの暴言を吐いてしまう。以前から友人とトラブルが多く、イライラした様子で、机を蹴ったり、物を投げたりしていた。最近は、暴言にとどまらず、友人を叩いたり蹴ったりすることもあり、授業が進まず焦っている。このままではいけないと思い、学年主任に相談したところ、特別支援教育コーディネーターを含め会議をすることになった。

指導や支援の専門家への相談は?



Fさんの行動により、他の児童が暴言や暴力に対し不安になったり、落ち着いて学習に取り組めなくなったりすることが懸念されます。しかしながら、現状を最小限にすることにとられると対処法ばかりになり、Fさん自身の困っていることに対する支援に結び付きにくくなるのが考えられます。Fさんは気持ちのコントロールが苦手な可能性があり、その背景には、きっかけとなる出来事があるかもしれません。口頭による指示が多い学習場面と、視覚的に課題が提示され順序性が分かりやすい学習場面とでは、困難さに差が出てくることもあります。支援を行っているにも関わらず、行動がエスカレートし対応が難しくなった場合には、関係機関との連携を念頭に、早急な対応を進めていくことが必要です。

相談できる機関を確認しましょう



特別支援学校のセンター的機能の活用

特別支援学校には「センター的機能」があり、地域の学校からの相談を受け付けている。通常の学級に在籍する児童生徒も対象となり、指導や支援、見立てに関する助言などを行っている。

発達障害者支援センター地域支援マネジャー

宮城県では、発達障害者支援として、「地域支援マネジャー」を地域ごとに配置し、支援者支援を行っている。福祉の専門家として活用することができ、学校からの相談にも対応している。

りんくるみやぎの発達支援教育相談

発達支援教育相談では、発達の遅れや偏りがあると思われる児童生徒の生活や学習について学校からの相談にも対応している。電話による相談の他、幼児児童生徒、保護者、教職員の来所による相談も行っている。



[ケーススタディー一覧へ](#)



[コラム一覧へ](#)



[はなさぼシートへ](#)



[地域支援相談MAPへ](#)



数学が苦手な生徒



担任
教科担当

中学校2学年の担任をしている細川先生は、クラスのGさんが、ノートを書くときに姿勢が悪く、話すときにそわそわしていて、早口な傾向があると思っていた。ノートの字の乱れや、数字の見間違いが多いことが気になっていたところに、Gさんが、展開図や方程式、グラフの読み取りの理解ができずに悩んでいると相談に来た。学年主任に報告しケース会議を開き、何度か検討を重ねたが、どのような支援が良いのか、手立てが見いだせずにはいた。専門的な助言が必要だと話し合われたものの、障害等の診断名がなく、どこにどのような相談をしたらよいか悩んでいる。

地域の身近な相談先は？



Gさんの、「方程式、グラフの読み取りが苦手だ」と意思表示ができる力は、今後の人生において非常に大切な力です。意思表示ができる力を伸ばしつつ、児童生徒の課題をどのように捉えてサポートができるか、チームで検討が必要です。Gさんは計算や推論をするといった特定の能力による学習の困難さが考えられます。姿勢の悪さは、筋力の問題だけでなく、ノートを他の人に見られないよう隠したいという気持ちの表れかもしれません。できないことを隠したいという行動が、早期発見を遅らせることもあります。児童生徒への支援や指導などについては、特別支援学校へ相談することができます。見立てや手立てについて困った場合には、相談先の一つとして検討しましょう。

特別支援学校へ相談してみましょう



電話で相談する

電話による相談では、現在の状況や困っていること、これまでの取組などの聞き取りから、今後の支援方法についての相談ができる。学校で直接児童生徒の行動観察を行う必要があるかどうかは、特別支援学校で協議し進められる。

学校へ訪問してもらう

相談した学校は、学習や生活場面の観察からの支援や指導について助言を受けることができる。必要に応じて保護者同席でのケース会議での助言を受けることも可能である。

定期的に相談する

学校への訪問相談は原則2回だが、必要に応じて電話で相談し、特別支援学校が継続的に関わることができる。児童生徒の進級や進学の際に引継ぎで不安になった際にも相談し、長期的な視点で助言を受けることができる。



check

ケーススタディー一覧へ



check

コラム一覧へ



check

はなさぼシートへ



check

地域支援相談MAPへ



行動の切り替えが難しい児童



担任

小学2年生の担任をしている黒田先生は、昨年度の担任からHさんが、大好きな昆虫に夢中になると始業時間に遅れ、声を掛けると、怒ったり、耳をふさぎその場を立ち去ろうとするという引継ぎを受けていた。昨年度は、専門家からのアドバイスを受け、見通しが持てるように事前に予定を掲示するなどの工夫をしていた。今年度も同様に見通しを持って落ち着いた環境で学習ができるような支援を行っていたが、次の行動への切り替えだけでなく、友達に虫を近づけて話し続け、相手が不快な表情をしていても気付かない様子があり、担任として人との関わり方についても気になっていた。今後、学習への切り替えや相手の気持ちへの理解が難しいHさんについて、どのように指導していくか、悩んでいる。

チームで継続的な支援を！



行動面での困難さは、友達とのトラブルとなって現れることもあります。Hさんは、相手の気持ちを想像することが難しく、コミュニケーションや人間関係での課題が考えられます。昨年度から行っているような見通しが持てる支援と合わせて、日々の学校生活で、意図的に教員が対人スキルを上げるような関わりをする方法もよいかもしれません。また、家庭と学校の支援方法が異なると、児童生徒が混乱する可能性があるため、保護者と密に情報を共有することも大切です。チームで定期的な話し合いを行い、チームで継続的に支援していくことが重要です。

「はなさぽシート」で、支援を継続しましょう



年間を通じた継続


「支援振り返りカレンダー」を活用することで、年間の支援の進捗状況を把握する。校内委員会などの資料や、必要な話し合いのタイミングを調整するなど、これまでの支援の状況を振り返ることで、継続的な支援につなげる。

定期的な話し合いによる継続


「情報共有シート」を活用することにより、児童生徒の変化を常に記録し、情報を収集し、共有することが可能になる。それを踏まえ、「話し合い記録シート」を活用し、状況に応じた児童生徒の手立ての検討、チームでの支援につなげる。


一日の中での継続

「あしあとシート」や「話し合い記録シート」を活用することで、保護者と連携する際に、支援の共有が図られやすくなる。また、学校と家庭で統一された方針で支援を行うことで、児童生徒の一日の支援内容が継続される。


 check [ケーススタディー一覧へ](#)



 check [コラム一覧へ](#)

 check [はなさぽシートへ](#)



 check [地域支援相談MAPへ](#)